

政治の病い ③ 自己責任の押し付け、未来を語れない政治

2021衆議院選挙で問われるものは?



- | くらし・社会保障・教育 | 民主主義・ジェンダー平等 | 地球環境・平和 |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ▶ コロナ禍で倒産・失業 ▶ 軍事費増強の一方、社会保障・教育費の抑制 ▶ 75歳以上の医療費一部負担金2割化を強行 ▶ 高学費に苦しむ学生、ひとり親家庭、外国人の困窮 | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 安倍政権・菅政権と続く説明しない政治、ウソや忖度がまかり通る政治 ▶ 言論の自由度67位 (2021年、G7主要国で最下位) ▶ 学術会議任命拒否 ▶ ジェンダーギャップ120位、政治分野147位(2021年) | <ul style="list-style-type: none"> ▶ 世界平均より低いCO₂削減目標 ▶ 時代遅れで環境破壊の原発政策に固執 ▶ 核兵器禁止条約に参加せず ▶ 完成の見通しのない米軍沖縄辺野古新基地建設を継続 ▶ 米軍基地を固定化し米軍の横暴・無法を野放し オスプレイも飛び放題 |



- 変えてきた!
- 人権と要求に基づく運動で政治は変えられる!
- 「生活保護の利用は国民の権利」と政府が明言
 - 「黒い雨」訴訟で国が上告断念。より広い範囲での被爆者救済に
 - 35人学級の実現、国民健康保険料(国保)に加入する世帯の就学前の子どもの保険料が半額に
 - 人権・ジェンダー平等を大切にする市民と野党の共闘が発展!! 2021年都議選でも力を発揮!! 野党共闘に参加した政党(無所属含)での女性議員比率は56%(36人中20人)

東京民医連の政策提言

何よりもいのちを最優先する社会へ

- ① 新型コロナウイルス感染症拡大の中でいのちと暮らしを守る
- ② 超高齢社会を支える介護職員の増員と定着をはかり高齢者の社会的孤立を防ぐ
- ③ 子どもがのびのびと成長できる30人学級、高等教育までの無償化を実現する
- ④ 個人の尊厳を大切にし、ジェンダー平等をすすめる
- ⑤ 平和・核兵器廃絶・原発ゼロ、地球環境保全を推進する

全文は東京民医連ホームページで



2020年 国の歳入 102兆6580億円



最大の税収に

低所得者ほど負担が重い逆進性で貧富の格差が拡大

税金は 応能の負担で!

アメリカを中心とする大富豪も「私たちに課税を…人間は私たちのお金よりもっと大切なのです」(7月13日)

消費税はまず5%に、そして0%に

世界では60の国と地域が消費税減税を実施・予定



みんいれん TOKYO
2021年9月号・10月号 号外
東京民主医療機関連合会
機関紙編集委員会 発行人：今井晃
〒170-0005
東京都豊島区南大塚2-33-10
ラパスビル2階
電話代表：03(5978)2741
ファクシミリ：03(5978)2865
E-mail：tmr@tokyominiren.gr.jp
(昭和62年3月14日 第三種郵便物認可)

コロナ禍でいのちを守れない 「政治の病い」を治そう

「平和のうちに生存(憲法前文)」でき 「個人として尊重(同13条)」される 誰にも優しい社会を目指して



政治の病い ① 科学を軽視する政治

この1年半 政府と東京都が広めた 新型コロナウイルス 感染拡大

波	日付	都内感染者累計(人)
第1波	1月24日	1
	4月7日	1195
第2波	7月22日	1万0054
	10月1日	2万5973
第3波	12月28日	5万7040
	1月8日	7万1182
第4波	4月5日	12万2951
	4月25日	13万5173
第5波	7月12日	18万2140
	7月23日	18万6400
	9月5日	35万6595

PCR検査の抑制

日本のPCR検査数は世界143位。積極的な検査と隔離・保護は世界のスタンダード。しかし、「医療崩壊の恐れ」など根拠のない理由でPCR検査を抑制した結果、5度の感染拡大を招く。

GoTo事業(トラベル、イート)

2020年7月からのGoTo事業開始で全国に感染が拡大し第2波に。さらに、12月からはるかに大きい第3波となり、高齢者施設や医療機関でのクラスターが多発。

東京オリンピック・パラリンピック

4回目の緊急事態宣言のなか開催を強行。国民に自粛を求めながら海外から多くの選手と関係者を招いたことは、矛盾したメッセージとなり、人の流れを止められず感染爆発を招きました。入院や宿泊療養は限界を超え、8月21日に自宅療養者が2万6409人に達するなど医療は崩壊し、いのちの保障がない状態を生み出しました。

今 都民の 40人に1人

いのち 守れない 「政治の病い」 治すときです

無責任で根拠のない
楽観論がもたらしたものは

(1月の)
第3波の時とは
状況が異なる
(7月28日)



「安全・安心」な
東京大会
(7月23日オリンピック
開会式)

政治の病い ② いのちを守れない政治

感染状況は制御不能 いのちを守るために

保健所・医療提供体制は機能不全におちいる

東京都 (2021年8月21日)

第5波 感染状況

今までに
経験したことのない
感染拡大
**新規陽性者
5774人**

制御不能

- 20～30代の感染急増
- 40・50代の重症化
- 高齢者の感染も実数で増加
- 商業施設、保育園・学校・職場でのクラスター多発
- ワクチン接種者も感染

今すぐ取り組むべきこと (9月時点)

- 一人ひとりの感染対策の徹底を呼びかける
- 十分なPCR検査で陽性者の把握、保護・隔離
 - ▶ 家庭等への抗原検査キットの配布と活用で同居する人からの感染を防ぐ
 - ▶ 高齢者施設等での検査頻度の引き上げで重症化しやすい高齢者を感染から守る
- 保育園、学校クラスターを防ぎ社会全体で子どもを守る
- ワクチン接種の促進
- 事業者の休業に対する十分な財政支援

感染症に強い社会へ 政治の転換で実現しよう

当面

- 制御可能な感染者数に抑え込む
(入院・宿泊療養の容量を超えない範囲に)

その先

- 科学的知見に基づく感染予防行動を広げていく
- 感染症に関わる研究・治療体制、専門家の育成をはかる



公衆衛生 保健所

保健所
都内31カ所
※1994年は71カ所

機能崩壊

- × 陽性者の入院調整
- × 自宅療養者の健康観察
- × 濃厚接触者の追跡
- × 感染経路の調査

- 体制強化等による保健所機能のたて直し
 - ▶ 墨田区は当初10人の保健師体制を100人に拡大
- 東京都健康安全センターにおける懸念される変異株の追跡を強化



当面

- もとの71カ所に戻し体制強化を図る

その先

- 原則、市に1カ所もしくは10万人に1カ所設置する

自宅療養

入院が必要な
中等症も無理やり

この日の療養者 **4万5456人**

調整中
29% **1万3183人**
自宅療養
58% **2万6409人**
宿泊療養
4% **1900人**

いのちの保障がない

- 保健所の健康観察が行き届かない
- 症状が悪化しても入院できない
- 自宅での死亡
26人(8月1日～9月2日)

- 健康観察・安否確認の体制強化
- 往診・訪問看護の医療提供体制の確立
- 家庭内感染を防ぐ
取り組みの強化
 - ▶ 狭い居室に家族が同居する場合等の対策



当面

- 入院・宿泊治療を拡大し自宅療養を減らす

その先

- 家族感染や在宅死を防ぐために自宅療養は原則行わない



医療提供体制

医療従事者は1年半にわたる
治療・対応で疲へい

入院
9% **3964人**
病床確保数
(7月26日時点)
5967床
医師・看護師等の体制
困難、重症対応増により
確保ベッドの7割程度の稼働にとどまる

機能不全

救える命が救えない

- 救急時の入院受入不能
- 重症患者のための病床ひっ迫
※新規陽性者の0.6～0.7%が重症化
- 手術など一般医療の制限や救急搬送困難
- 医薬品、人工呼吸器等医療機器の不足

- 臨時の大規模な医療施設の設置、東京五輪会場の利用
- 確保した陽性者用病床を最大限活用
 - ▶ 医師や看護師等働き手の確保
 - ▶ 医療従事者が家庭感染で働けなくなるリスクを軽減(家族へのワクチン接種等)
 - ▶ 回復後の医療・介護施設の確保と連携強化、そのために陽性患者受入医療機関並みの財政支援



当面

- 医療機関や介護施設等の役割分担をより明確にし、それぞれの機能を充実させ感染者を守る

その先

- 医療や福祉などのエッセンシャルワーカーを確保・育成し、感染防止を十分に行える体制に
- 今後の新興感染症に備えてコロナ対策を振り返り計画を策定する
 - ▶ 病床削減ありきの地域医療構想は中止
 - ▶ 都立・公社病院の独法化は中止

